

英國の海賊性を衝く!!

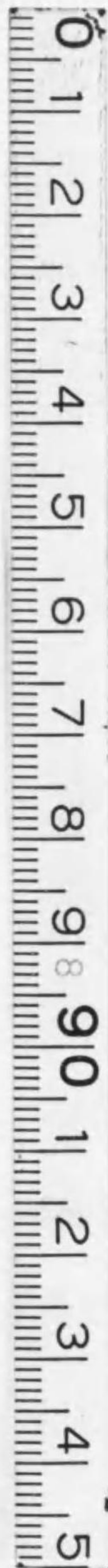


特 246

897

林 儀 著

情 友 の 國 英



始



特246
897

池田林儀著



英國の

海賊性を衝く

發行所 亞細亞大陸協會





— 印度の騎狩り

土人の子供に性を英人残虐に

(一八九九年九月九日・リル紙よ)

英國の海賊性を衝く

一、英國の彈丸に同胞の犠牲

支那事變は、アジアの同胞支那を討つのではなく、蔣介石を操縦して、奪み取ったアジアの權益を固守護断しやうとする、背後の魔力を撃破するのだ、とは國民大衆の常識となつてゐる。

事變勃發以來、イギリスが蔣介石に與へた援助は、言語に絶するものがある。われらは、今こゝにその援蔣の事實を一々列挙する前に端的に、一言したいことがある。一昨年八月、九月、十月にわたりて、イギリスが香港を通じて、蔣介石に供給した飛行機、銃砲、彈藥だけでも、蔣介石をして半ヶ年にわたりて日本に抗戦せしめるに足るほどの多量なものであつたと傳へられてゐる。

況んや、その前後において供給したところの金錢物資を加へるならば、その數

量のほどは測り知るべからざるものがある。銘記せよわが皇軍の勇士たちは、これらの武器弾薬の前に悪戦苦闘し、ある者は傷きあるものは尊貴なる生命を君國に献げたのである。

この尊貴にして偉大なる犠牲こそは、表面支那事變のためにと云はれてゐるけれども、その眞實性を追究すれば、實にイギリスそのものこそ、われらの敵であつたと云つても宜しいのである。

事實われらは、この蔣介石背後の力を粉碎掃蕩して、東亞の平和を確保し、奪はれたるアジヤを奪還し東亞の新秩序を建設せんとして全力をつくして來た。また、今後と雖も、斷乎として初志貫徹に邁進しなければならぬ。

二、自己本位の外交手段

それについては、われらは先づイギリスが如何なる國であり、イギリスが如何なる國民であるかといふことについて、認識しておく必要がある。

昨年の日英東京會談なるものは、未だ何人の記憶にも新たなるものであるが、當時天津におけるイギリス代表は、現地の激昂せる居留民、意氣込み盛んな天津駐屯軍の態度に恐れをなし、とう／＼逃げ出して東京で會談をやらうといふことに仕組んだ。東京に來て見ると東京の空氣も甚だ面白くないので、とう／＼有耶無耶にしてしまつた。

彼等狡猾なるイギリス當局は、東京に行けば、東京には親英派の親玉が巢喰つてゐるから、何とかうまく行くだらうと考へたのである。それが思ふ壺にはまらなかつたわけである。斯の如く、イギリス人は、目的のためには手段を選ばないといふやり方をするのが、彼等の外交の常套手段である。

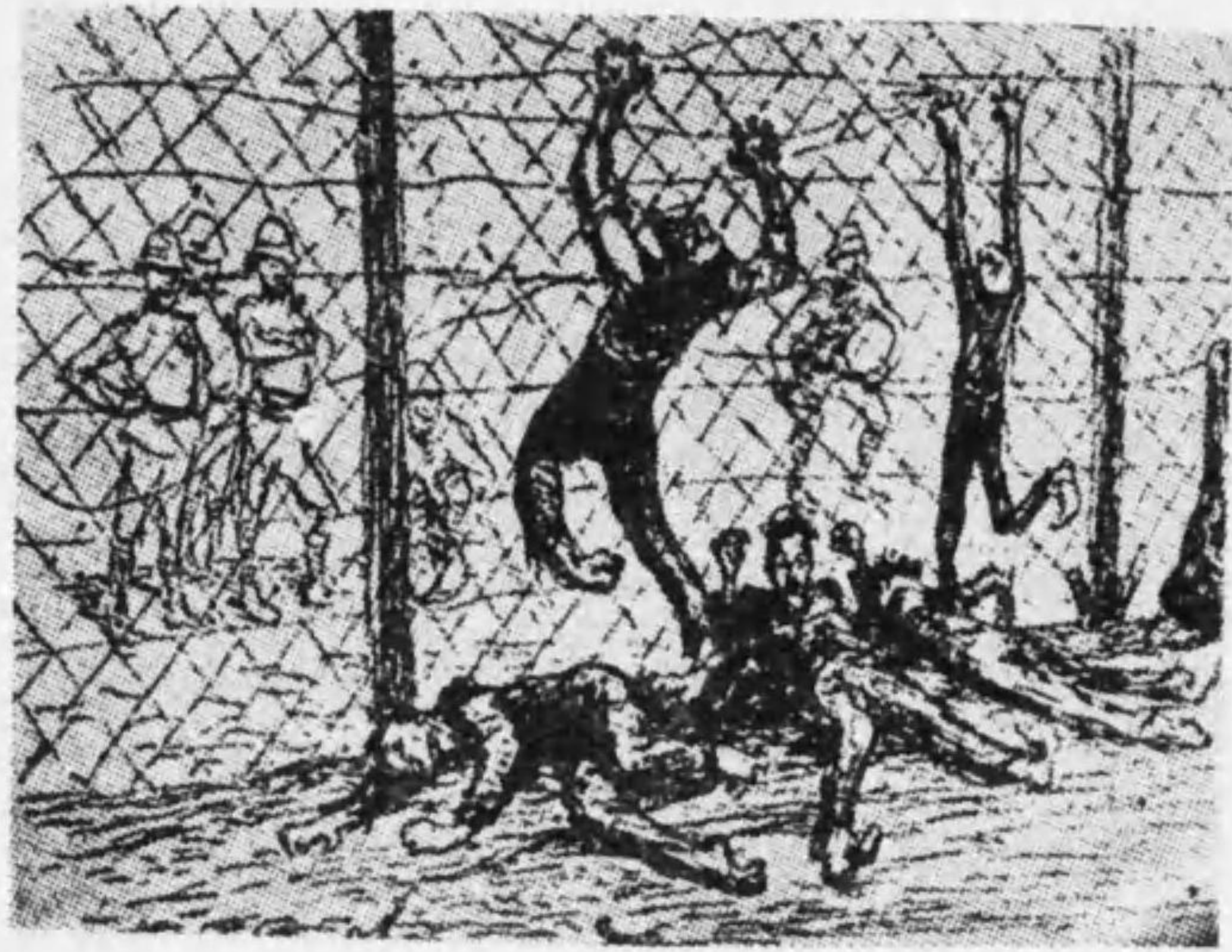
一昨年、ヒトラーが腹をさめてズデーテン地方を併合しやうとし其時、ヨーロッパの風雲は全く急を告げた。イギリスは最初ヒトラー何するものぞと大きく構へてゐたが、どうも思ふやうにならぬ。いよ／＼風向きが怪しくなつて來ると、これではいかぬとばかり、老チエムパーレンがわざ／＼飛行機でミュンヘンにヒ

トラーを訪した。大英帝國の宰相が遽かに膝を屈して、洋傘をかゝへて飛行機に乗つて出かけた圖を想像して見よ。

ところが、遙々出かけて行つたに拘らず、ヒトラーの決意は嚴乎として動かぬ。チエムパーレンは止むを得ずして引き返した。そして、再び飛行機で出直し、ライン河岸のバトゴータスベルグまで出張して折衝したが、結局ヒトラーに制せられてしまつた。

その結果は、チエムパーレンが三度ドイツを訪問することになり、ミュンヘンで所謂獨伊英佛四國會談となつて、チエツコ問題は片付き一時ヨーロッパの平和が成り立つたかの如くに見えた。

英國がこの交渉においてなしたところは何であつたか。たゞ自己の利益のために計り、そのためには面目も體裁もなく、何遍でも老體を提げてドイツを訪問することもし、ヴェルサイユ會議以來の友邦が或は亡び、或は壓伏せらるゝことを知らんふりで通してしまふのである。



— 學科 進歩 —

南阿戰役に英國の捕虜となし針金を電流に通じた矢來内
に虐殺されたる人々の數三萬餘 (一九一〇年佛誌より)

この態度は、既にエチオピア滅亡に際して、イギリスがエチオピア軍を見捨て、顧みなかつた一事でも、既に世界の卑下して措かざるところのものである。

三、海賊の擴大強化

イギリスの歴史は、すべて陰謀と虐殺と侵略との反復である。一〇六六年の建國も、海賊王ウイリアムによつて行はれたもので、イギリスは畢

竟海賊が擴大強化された國であるといへる。事實、イギリスは、引續く海賊的行爲によつて大きくもなり、金持ちにもなつたのである。

海賊——育ちの悪いものは、どこまでも悪い。育ちは争へぬものがある。海賊イギリスには道徳的なものは全く姿を没してゐる。宗教さへもこの海賊的發展の武器であつた。イギリスにとつては、利益の追求といふことが一切であることが知らねばならぬ。權益を得、又これを守るためには、手段と方法を選ばないのがイギリスである。

一つの例を擧げるならば、ランカシアの紡績工業を守るためには、インドの紡績手工業者の指を切斷しさへしたのである。即ち、自國の産業を守るためには、如何なる暴虐殘忍をも敢てすることを辭せなかつた。産業革命の成就是、この非人道的行爲によつてのみ成し遂げられたのである。さればこそ、イギリスの機械の回轉數だけの人間が、イギリスによつて殺されたといはれるのであつて、この言葉は何等の誇張でもデマでもないのである。

イギリスのアジア侵略の先驅をなしたものは、海賊の巨魁フランシス・ドレークや、ジェームス・ランカスターである。この二人の名は、同じく侵略者仲間であり。また海賊ともいふて然るべきスペイン人からさへ「西インドの恐怖」と呼ばれたところのものである。

一五九一年四月、海賊ジョージ・レイモンドは旗艦ベネロープ號以下、マーチャント・ローヤル號、エドワード・ボナヴェンチュア號の三船を率ゐて、プリマウス港を發してインドに向つた。それは、これまでポルトガルが獨占してゐた喜望峰航路に對するイギリス船の最初の挑戦であつた。

この三船の中、マーチャント・ローヤル號は、喜望峰に到着せぬうちに、病人が續出してどうにもならず、とう／＼それらの病人を（他船の分をも）取りまゝとめてイギリスに歸つてしまつた。

他の二船は無事に喜望峰を廻り、非常に喜んだが、それも東の間非常な暴風雨に遭つて旗艦ベネロープ號は乗員もろとも海底の藻屑となり、ボナヴェンチュア號

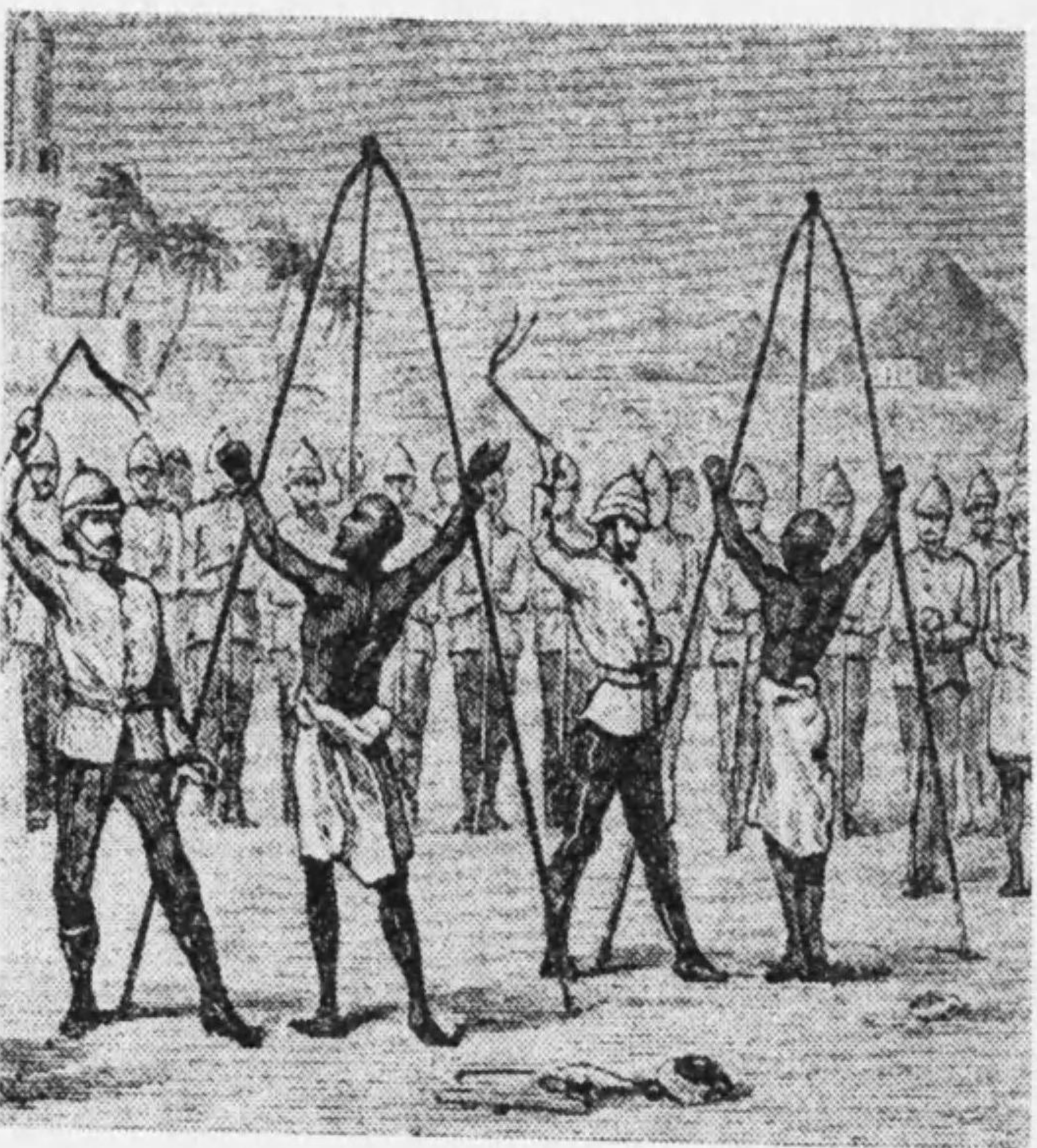
のみはこの受難を免れてインドに達し、更にマラッカ海峡に到り、こゝで盛んにポルトガル船を掠奪して、セイロン島まで歸り、そこからイギリスに引き上げたそのボナヴェンチア號の船長が、ジェームス・ランカスターである。

四、印度榨取會社創立

イギリスの印度經營は、東印度會社によつて始められたものである。會社といつても、當時これは明らかに海賊會社であつたのである。

エリザベス女王から、海賊印度會社設立の勅許狀が下附されたのは一六〇〇年であるが、その勅許狀に署名された二十四人の委員の一人に、海賊巨魁ジェームス・ランカスターの名があることを忘れてはならない。

一六〇一年東印度會社は「貿易を目的として」といふ名目の下に、第一回の商船四隻を派遣することになつた。その總指揮となつたものはジェームス・ランカスターであつた。そして、この「貿易を目的とした」四隻の船なるものは（總噸



表ひ云て以を語言は道人非のスリギイたい拔め唐をトブジエ
るゐてつ語物に辯雄をてべすは眞寫や繪。ぬ來出がとこすは
ジエが人スリギイは繪のこぬれき許が表公はく多のそどれけ
がみよのもの度程のこがるあて景狀一の刑答たへ加に人トブ
るゐてれは行に主

數一四〇
〇噸であ
つた。合
計一〇門
の大砲と
約二千の
砲彈が裝
備され、
小銃その
他充分な
る武装を
整えた堂
々たる戦

艦であつたのである。

印度に向つたこの四艦は、先づ赤道附近においてポルトガル船五隻を血祭りにあげ、マラッカ海峡において商船を脅かして莫大な商品を掠奪してジャヴァに至りその掠奪した商品を以て「貿易」を行つた。この航海の結果東印度會社は、全費用の百二十パーセントといふ法外な利益を擧げたといふことになつてゐるが、その裏面にはなほ幾多の掠奪と欺瞞とが秘められてゐることを、知らねばならぬ。ジェームス・ランカスターは、この「功勞？」によつて「サー」の稱號を許された。

海賊によつて設立され、海賊によつて指導された東印度會社が、印度に對して強盜的擄取を行つたことは不思議ではない。

この時以來、印度はイギリスの掠奪と暴政に苦しめられ通しである。教育は輕んぜられ、文化施設は省られず一切は蟲けら、以下に放任待遇された。一七七〇年には印度史上最大の飢饉がベルガル州に起つたのは、互にイギリスの秕政の結

果であると云はれてゐる。この時の死者實に一千萬人以上であり、しかも、租税だけは容赦なく徴收された。

この時以來、印度において飢饉は名物となつてゐる。十九世紀中のその回數を見ても、最初の四半世紀に五回、死者百萬、第二には二回、死者五十萬、第三には六回、死者五百萬、最後には十八回、死者二千六百萬以上。と云はれてゐるのである。

印度におけるイギリスの秕政暴政を述べたてゝにおいては、大學に一講座を設けるに足る十分な資料があるといつた人さへある位である。

五、印度經營と殘虐政治

東印度會社は一六〇〇年に、わづか七十萬ポンドを以て、印度經營を始めたのであるが、イギリスは、今日斯ういふことを云つてゐる。イギリスは印度の政府や地方廳に、二六、〇〇〇餘萬ポンドの債權を持つて居り、この外に鐵道には九

〇〇〇餘萬ポンド、公共事業には一、二〇〇餘萬ポンド、鑛山には一、四〇〇萬ポンド、その他にも八、〇〇〇萬ポンドを投資してゐると。これによると計四五六〇〇萬ポンド、約四億六千萬ポンドの投資をしてゐるわけである。

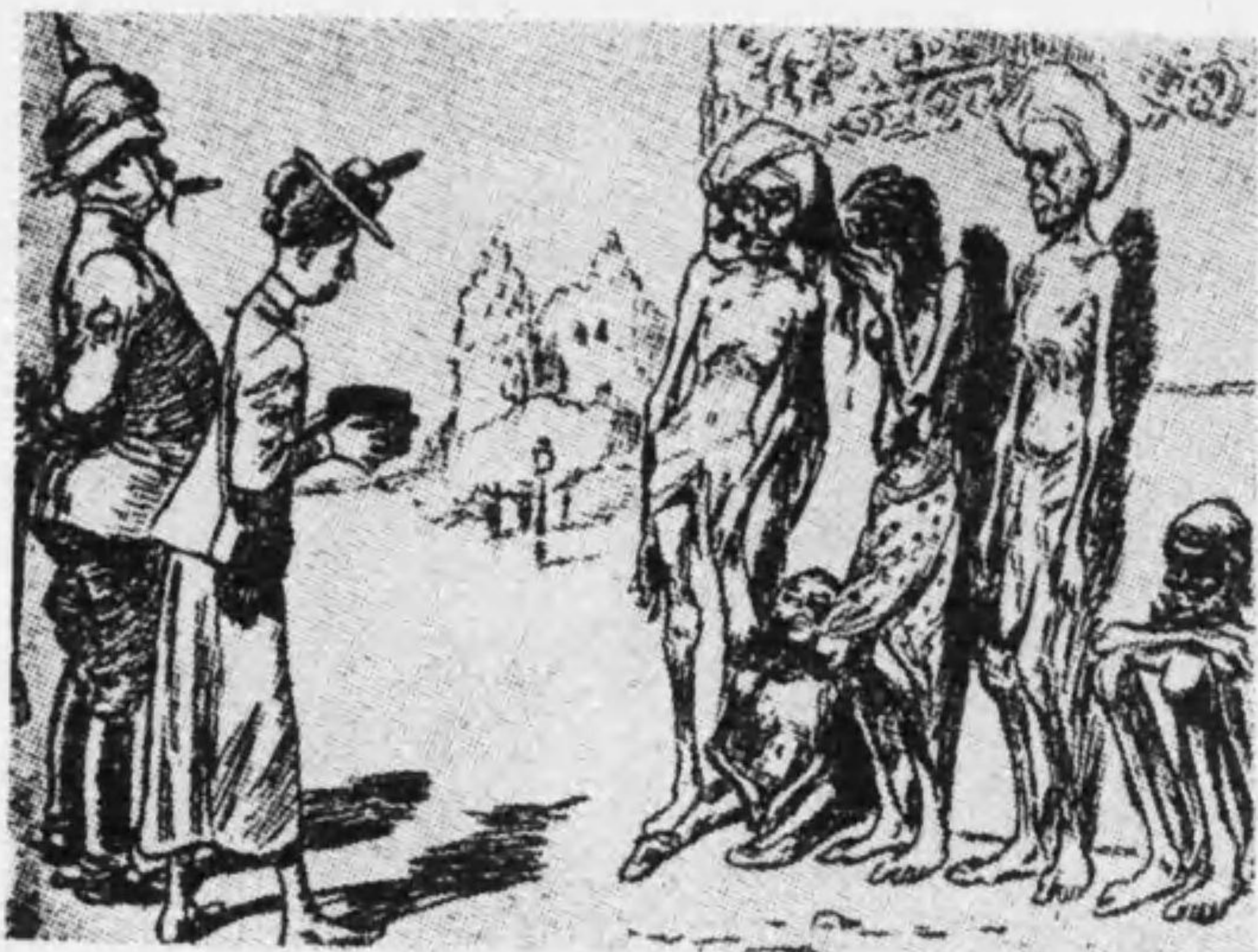
ところが、イギリスは一六〇〇年以來、常に莫大な現金を印度から本國に持ち歸つて居る。イギリス本國においては、今日まで一年でも投資による赤字を出したことがない。しかも、今日ちやんと印度に四億六千萬ポンドの投資を残し、その外年々四千萬ポンドを本國に持ち歸つてゐるのである。投資したといふ四億六千萬ポンドすら、實に印度自らが奪はれたところのものなのである。

斯の如き印度經營が、印度人を怒らせぬといふ理由はない。その不平は色々な形において現はれ、時には激しい叛亂の爆發ともなつたのである。然るにイギリス政府はこの不平不満の現はれに對して、殘虐横暴を極めた處置を加へて來てゐる。一八五七年の大叛亂の一例を見ても、三ヶ月間に絞刑に處せられた印度人の數は六千人に上つて居るといはれる。しかも、その絞刑を受けたものの中には、

老人婦女子があり、少年少女があるのである。ケイ及マイルソン共著の「インド人大叛亂の歴史」一卷を読むものは、恐らく他の文献を渉るまでもなくイギリス人のやり方の全貌を看破し了るであらう。

斯の如き殘虐は、現代までもなすつてけられて來てゐるものであつて、終始變るところがない。例へば、一九一九年國民會議がバンデヤブの一都會アムリツツアで開かれた時、民衆の示威運動が行はれたが、イギリスの陸軍當局はこれに對して「民衆に教訓を與へる」と稱して、四月十三日、武器を全く持たない老若男女一萬二千の群衆に對して銃彈一千六百五十發、(ハンター委員會の調査による)を發射し死者三百七十九名、負傷者一千百餘名を出し、死者にも負傷者にも何等の手當もしなかつた。

この事件と同じ時、ラホールでは、六千人の群衆に對して「印象を與へてやるのだ」と稱して、装甲車が駆けつけ、機關銃の雨を浴せかけ飛行機からもこれらの群衆及び附近の農村部落にも射撃を行つた。



— 印度人飢饉に泣く —

ボネンツの英國婦人平然とその悲惨な状態を撮影す
(一八八九年九月九日・リール・リョ)

右の事件は八ヶ月間も秘められてゐたが、ついに暴露し、ハンター委員会がこれを調査したのであるが、その時の指揮官ダイヤー少将は免官された。しかもその免官の理由が虐殺をやつたからといふのではなくて、ダイヤー將軍が、一定の街路を通行する印度人は、すべて手足で這ひ行くべし、と命令したことがいけないからといふのであつた。虐殺は差支へないものと見えてこの事件後、パンジャブ總督チ

ユル・ムスフオド及副總督サー・ミハエル・オドエーは反つて稱讃されてゐるのは奇怪である。

六、阿片戦争の勃發

海賊から出發したイギリスの東方經營は、終始一貫して海賊行爲の反復である。イギリスが支那に對するやり口も、結局この海賊行爲に外ならぬ。支那におけるイギリスの海賊行爲は阿片戦争から始まると云つて宜しい。イギリスは十九世紀の初め、東印度會社をして、支那に對しインド産の阿片の輸入を行はしめ暴利を貪らうとした。これに對して、有名なる硬骨漢、湖廣總督林則徐が、敢然として反對したのである。彼は阿片は人類の敵であるイギリスが支那人に對して阿片を服むことを強いたり、賣り付けたりすることは罪惡である。罪惡を伴ふ貿易は斷じて許すことが出来ぬとして、密輸入された阿片二萬箱を、廣東の埠頭に山の如くに積み上げ、イギリス人の面前で焼き拂つてしまつた。

そして、彼は、支那は決して外國貿易を禁ずるものではない。たゞ阿片の密輸入を行はんとするが如きイギリス人には、貿易を許すことが出来ないのだと宣言した。

この林則徐の毅然たる態度に直面したイギリスは、忽ちその海賊性を暴露した彼は武力を以てこれに復讐せんとし、こゝに勃發したのが有名なる英國の三大不義戦の一と云はれる阿片戦争である。

イギリスにおいても、グラッドストーンの如きは、阿片密輸入の罪惡であることと認め、斷然これに反對したのであるが、當局は遮二無二支那に對して武力の彈壓を加へ、その結果支那は遂に屈服して和を乞ひ、一八四二年南京條約を締結するに至つた。

南京條約の結果、イギリスは、香港を占領し、廣東、上海、福州、廈門、寧波の五港を開かして、租界の特權を獲得した。その後長髮賊の亂に乗じて、支那の領土であつたビルマを奪ひ、更に九龍を租借して香港の領域を擴大し、揚子江

流域の不可侵條約を締結せしめて、これを英國の特殊地帯とした。その他、支那の全土にわたつて治外法權を獲得し、同時に支那の港々の税關に對する管理權を掌握するに至つた。

今一つ記憶しなければならぬことは、一八六〇年、イギリスとフランスとが、阿片を密輸入しやうとしたアロー號といふ船の乗組員を支那が勝手に處分をしやうとしたことから激怒した英佛聯合軍は天津から北京に攻め入つて、遂に北京條約を締結し、これによつて新たに認めさせたものが天津租界である。といふことである。

これによつて見ると、イギリスに於ける支那に於ける勢力は、すべて海賊的行爲によつて得たものであることが明瞭であると同時に、イギリスが固守しつゝある支那における租界は、廣東といひ、上海といひ、廈門といひ、天津といひ、何れも阿片の密輸入に關する不徳義なる歴史の産物であり、イギリスの最も恥ぢなければならぬ事實であることが明瞭である。

七、英國民の外に人なし

一八

イギリスの斯の如き海賊性は、その建國の當初から遺憾なく發揮されたところであつて、イギリスの全世界にわたる勢力の發展の歴史は、東西終始一貫してその暴虐不遜の跡を物語つてゐる。アフリカにおいて、カナダにおいて、アラビアにおいて、すべてが驚ろくべき忌はしき行爲が反復されてゐる。われらは片々の事實を一々列擧するの違はないが、以上述べたところによつても、十分にイギリスの如何なる國であり、如何なる發展の跡を遣して來た國であるかを推擧するに足ると思ふ。

之を要するに、イギリス國民は、自己の利益のためには、如何なる手段も方法も辭せないといふことに徹底してゐる何でも、イギリスのため、イギリス國民のためといふことに徹底して、これに反するものにも斷乎として如何なる手段をも擇ばないといふのが特性であると云へる。この事については、ヒトラーもその著

『我が闘争』の中に次の如く述べてゐる。

「いかなる國民と雖も」イギリス以上に、劍による經濟征服を準備し、武力によつて、その經濟力を確保した國民はない。經濟上の収益を以て、直ちに政治的力と化し、又、直ちにそれらを政治的權力に移すのが、イギリスの傳統的指標ではないか。されば、イギリスが「平和的手段」によつてその經濟政策を守るだらうなど、考へることは完全な誤である。イギリスが國際的軍隊を有たぬといふ事實は、その證據には斷じてならない。一國の力を現すのは、軍隊といふ形式ではなく、現有するすべての力を、最も効果的に使用する意思と決斷であることを知るべきである。イギリスは、必要なる軍備だけは何時でも保有して來たのである。而して、成功を確保するために必要とあれば、何時如何なる時でも武器を用ゐることを辭さなかつた。彼等は、商業的手段だけで十分な時には商業的手段を用ゐた。傭兵だけで十分と思へば、傭兵を差向けるだけに止めた。然し、どうしても犠牲が必要となれば、最もよく血を流した國民である。

われ／＼はそこに確乎不拔の闘志と、決然たるイギリス精神とを見るのである。ヒトラーは右の如くイギリスを好意的に見てゐるのであるが、よくイギリスがイギリスのためには手段を選ばないといふことを、その言葉の中にはつきりと喝破してゐるのである。事實イギリスは、自分の國のためになることのために、その一身を如何やうにもしなければならぬとの信念に生きてゐる。即ち、イギリスのため、イギリス國民のためとあれば、嘘をついてもいい、人を殺してもいい、どんなことをやつてもいいといふ信念に生きてゐるのである。イギリス及びイギリス國民の外に國もなければ、國民もないといふ信念に生きてゐるのである。さればこそ、印度人を虐殺し、四足獸の如く歩ませ、それでもなほ平然として紳士道を高調して恬然恥ぢないのである。

八、紳士道の變通自在

習ひ性となるといふことがあるが、イギリス人のこの海賊性は、その國民道德



—に食餌の貧乏れ哀も義正—

(六年六六八一氏ルーミダ家畫刺諷國佛)
す刺諷を歴弾大カイマヤジの英の月)

にまで浸潤して來てをるイギリス人はよく紳士道といふことをいふ。日本でも明治以來のイギリス崇拜の人士は、紳士道を高調する。ある場合には反つてこれらのイギリス崇拜の人士の方が、イギリス人以上に紳士道なるものを買被つてゐる場合が多いやうにも考へられる。

しかし、この紳士道な

るものは、よく検討して見ると、可成り眉唾ものである。勿論紳士道にもいいところはある。あるにはあるが、よく突き詰めて見ると、海賊性から脱し切れない極めて根の深い、我利々々根性はその基調をなしてゐることを發見する。僞善、虚飾、我利々々がまざ／＼と現はれてゐることが多いのである。

紳士は他人の悪い處や缺點は見て見ぬふりをすべきであるといふことを云ふ。いかにも結構なことである。但しこれはイギリス人お互ひの間だけのことである。外國人に對してはそれが通用しない。外國人の缺點や弱點を發見し、それによつて自己の利益となることを認めると、勇敢にその缺點や弱點に付け込んで來るのがイギリス人であり、紳士道である。

また、イギリス人は對手が強いとすると、出來るだけこれが懐柔策をはかるが對手が弱いと見ると、どこまでもそれに付込んで來るのが、例である。これが紳士道である。それは日本人などには、容易に諒解の出來ないことであるが、事實これがイギリス人の特性であつて、イギリス人には決して、弱味を見せてはなら

ないのである。

昭和十四年の天津事件でも、同十五年の淺間丸事件でも、未だ生々しい事件であるが、イギリス人の之に對する態度は、よく右に云つたことを證明してゐる。日本が強くと出ると、とやかく誤魔化し去らうとするし、日本が少し下手に出ると直ぐ付け上つて暴慢極まる態度に出て來る。

紳士道の變通自在はまことに驚嘆に値するが、それが常に我利々々根性から出發して、自分の都合のいいこと、自分の利益になることに向つて餓ゑたる虎の如く牙を磨きつゝ成長して來たことは、海賊としての育ちの争はれぬ證據である。

九、對日壓迫へ移行

イギリスは從來日本と交友關係において、明治維新以來極めて宜しきものがあつた。日本はこの點において、イギリスの善き半面をのみ約半世紀にわたつて見て來た。少くとも明治の初年から、日露大戰を経て、世界大戰にいたるまでの間

は、日英兩國の關係極めて緊密であり、世界は日英兩國の提携によつて平和が維持されるかに見えた。

そして日本國民は、無條件にその善き半面のみ心奪はれて、他の半面について油断なき注意を拂ふことを忘れて來た。國際關係といふものは、決してさう單純なものではなく、常に表裏善惡兩面に注意を拂はなければならぬものであるといふことを忘却してゐたのである。この點日本はたしかにお人よしであつたといはなければならぬ。「人を見たら泥棒と思へ」といふ諺があるが、この諺をすら忘れてゐたために、イギリスの本性を見破ることも出來ずに來たわけである。

われらは先づ斯う云ふことに注意しなければならぬ。明治維新當時、イギリスは一つの野心を持つてゐた。フランスも同様であつた。それは、幕末の政治的混亂に乗じて日本に對して、武器兵力を供給して、政治的軍事的財政的提携を密接にして抜くことの出來ない勢力を植ゑ付けやうとしたことである。

西郷吉之助と勝安房とが薩摩屋敷に會見して、江戸を兵亂の巷にしてはならぬ

と兩雄の意氣と意氣とを以て、平和的に江戸城明け渡しの大折衝をやつたことは世人の知るところであるが、その折衝の際において、特に兩雄が考慮したことは實に此の重大時局に際して、イギリスやフランスの財力や、武器や、兵力などが勤王派といはず、佐幕派といはず、どちらの方へでも、少しでも入るやうなことがあつては、將來由々敷きことになる、これはどうしても、日本國民お互ひの手でこの時局を解決し外國の勢力を寸毫も加へず、將來外國から指一本指されぬやうなことにしなければならぬ、といふ國家百年の大計の下に、兩雄が平和的解決を遂げたものであることを知らねばならぬ。

この點が兩雄の大政治家としての眞面目なのであつて、兩雄會見の場面について最も大切な内容であつたことを銘記しなければならぬのである。

蔣介石がかくの如き先見の明なく、漫りに英米と結んだり蘇聯と結んだりしたことは、支那を全く地獄沼泥に陥れたものであつて、永久にそこから抜け出られなくなつてしまつてゐる事實を見るならば、如何に外國の金力武力に結びつくこ

との危険であるかを知ることが出来る。

かくの如く、維新の際において、巧みにその野心の裏を缺かれたイギリスは、その後日本の容易ならざる國であることを知り、こゝに野心の毒牙を匿して反つて日本と提携し、これによつて、印度に備へロシアに備へ東洋におけるイギリスの權益を守らうとしたのである。

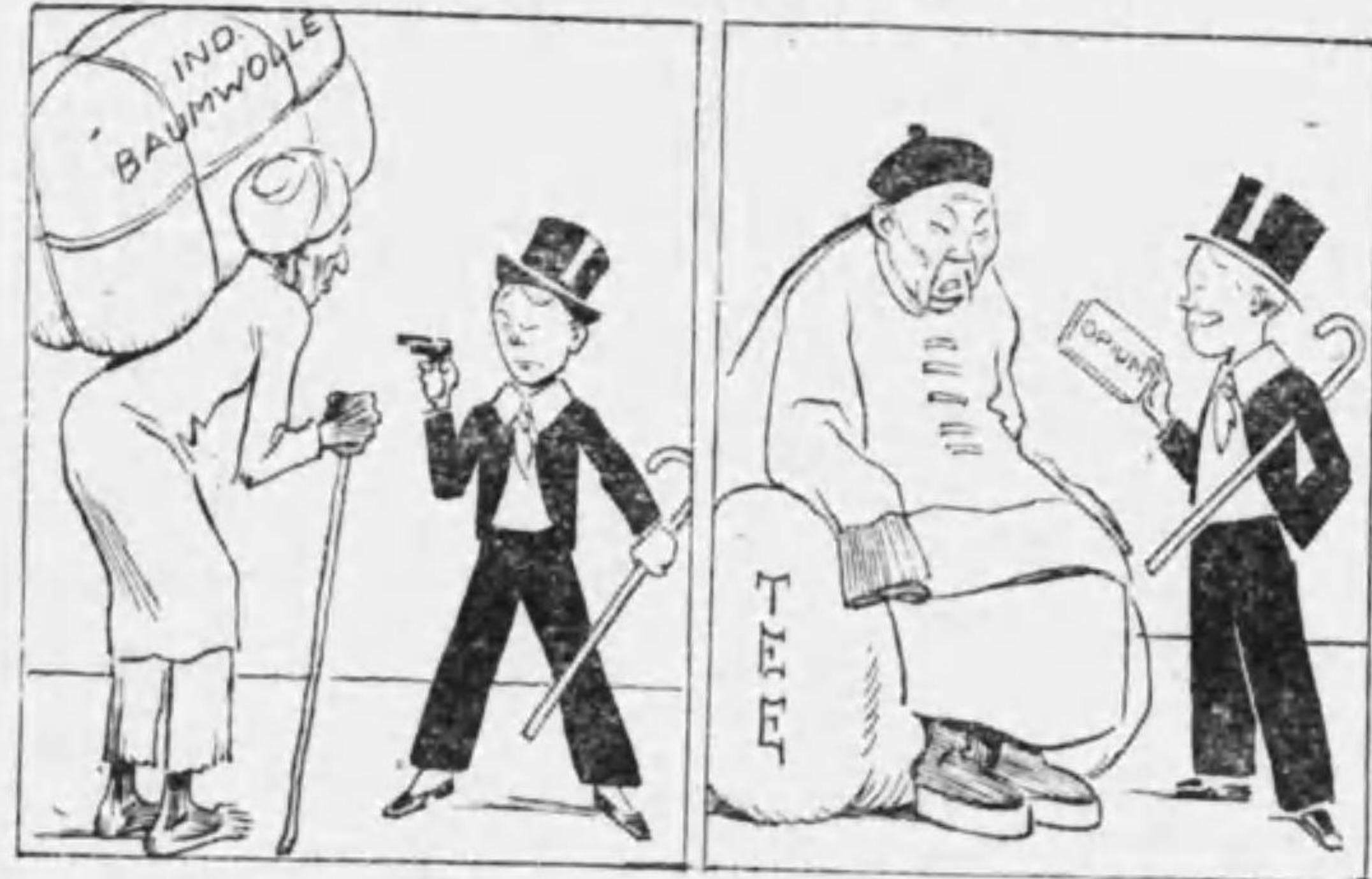
その目的が完全に達して、日本は見事に先づ清國を破り、更にロシアを撃破し東洋の事定まるやうになつたのであるが、次に來たものは世界大戰であつた。世界大戰の結果、日本は一躍して世界の大國の位置を確保し、驚ろくべき躍進を遂ぐるに及んで、イギリスもアメリカもこれに畏怖を感じ、その芽の大きくならぬうちに、これを粉碎しやうとたくらんで、ワシントン會議を開いたり、日英同盟を破棄したり、あらゆる壓迫を加へはじめたのである。その後における、英米の對日政策が、如何に横暴卑劣極まるものであつたかは、今さらこゝに嘸々するまでもあるまいと思ふ。

一〇、支那事變に魔手

最近の記憶に新たなるところを顧みて見ても、昭和八年日本が蘇聯を背景とする共産黨の赤化侵略を防止せんがために、滿洲獨立を實現せんとした際、あらゆる障礙をこれに加へ、國際聯盟をして獨立の否認、日本彈劾の決議をなさしめた首謀者であり、劃策者であつたものはイギリスである。昭和十年リープスを支那に派遣し、日本の反對あつたに拘らず、支那をして銀本位の貨幣制度を廢棄せしめ、英米のポンドやドルに聯絡する外國爲替本位の貨幣制度を採用せしめ、引きつゞき蔣介石政權の下に發行された法幣の擁護に全力をつくし、日本の勢力下に發行されつゝある聯邦銀行券及び中支の華興商業銀行券の流通を妨害して、日本軍の占領地域における金融を攪亂しつゝある。

昭和十二年八月皇軍が上海附近に上陸するや、直ちに上海中立案を提議して、在支外交團を誘引し、皇軍の前進を阻止せんとしたり、十月にはブラッセルに九

大英帝國致富之道



を(綿)富のドンイはスリギイ
を力武でたはにれそたし略奪
るあでのたし用利に的底敵

の唯一の富致スリギイは力暴
ほなに上のそがたつあて段手
せ被を恩を片阿素毒の類人且
たし賣し押に那支、つ

ケ國條約國の命令を主催し、日本
の支那に對する出兵を以て九
ケ國條約違反として彈劾せんと
したのもイギリスである。
イギリスはまた、昭和十三年
九月國際聯盟總會を開催し、總
會をして再び支那事變を議題と
なさしめ、國際聯盟規約第十六
條により日本に制裁を加ふるこ
とを決議せしめてゐる同年十二
月になつて蔣介石の勢力が次第
に衰へ、長期にわたつて日本
に抵抗することの不可能なるを

自覺するや、俄かに蔣介石に軍
器軍需品を供給し、蔣介石を強
化する目的を以て議會に輸出補
償制度擴張案を提出し、支那に
對する普通商品の輸出に對し、
二千五百萬ポンドの損失補償、
また別口として、支那に對する
武器の輸出に對して一千萬ボン
ドの損失補償、合計三千五百萬
ポンド、即ち日本貨に換算して
約六億圓に達する損失補償を引
き受けてゐる。

また、同年十二月、イギリス

大英帝國致富之道



道の存生でい注を血膏に漠沙
套常らか人アピラアるめ求を
油石てしくつをた暴るた段手
たつまして

の亞東てしくつを戻暴るゆらあ
しと國大の奇怪む生を利が利てつ
なと國大の奇怪む生を利が利てつ
被を面假ふいと士神がれそたつ
るあていぶそうに前の界世

はアメリカを勧誘して、二千五百萬ドル、(邦貨約八千萬圓)のクレジットを支那のために設定せしめ、支那が米國の商品を輸入せんとする場合には、二千五百萬ドル程度を、支那に前貸するといふ便法を設けさせた。

これに關しては、アメリカ政府も流石に日本に對して遠慮し、この二千五百萬ドルは、アメリカの農産物並に製造品を支那に輸出するがための前貸金であるといふてゐるのであるが、イギリスにおいては、これは、日本が滿洲國並に支那において、アメリカを差別待遇することに對するアメリカの報復手段であつて、蔣政權に對する武器輸出を意味するものであると宣傳してゐる。

一一、援蔣に積極的乗出し

昭和十四年三月、支那における法幣の價格が下落せんとする兆候が現はれるとイギリスは從來の法幣準備金の外に、更に、法幣安定資金として、一千萬ポンドを支出し、法幣の價格維持に全力をつくしたのである。殊にその一千萬ポンドは

半額はイングランド銀行において、残りの半額は支那の中央銀行並に交通銀行に於いて負擔することになつてゐるのであるが、支那の中央銀行並に交通銀行が支出する金額も亦すべてが、イングランド銀行が立替ることになつてゐる。そればかりではなく、萬一支那の中央銀行並に交通銀行が利拂ひの出来ない場合には、イギリスの大藏省が代つてその利拂ひをすることになつてゐるから、法幣の安定は事實において、すべてこれをイギリス自身が引き受けて全力をつくしつゝあることを見る。

かくの如く、イギリスが蔣介石を援助するがために、直接間接執つてゐる政策は多種多様であつて、イギリスは正に日本と戦つてゐるのだといつても宜しいのである。即ち、今日の蔣介石は全くイギリスの傀儡即ち人形であつて、イギリスは傀儡師即ち人形使ひであることは、隠すことの出来ない事實である。それにも拘らず、イギリスは、日本政府に對してイギリスの支那事變に對する態度は嚴正中立であるといつてゐるのである。斯の如きは實に己れを欺き他を欺くも甚だし

いものであつて、その厚顔無恥、傲顔不遜、全く海賊中の最も悪性なる海賊の態度と云はなければならぬ。

こゝに面白いことがある。香港の上海銀行の頭取ピアース氏は、昨昭和十四年の二月二十五日の株主總會で、イギリスが支那に投下した資本によつて布設せられた鐵道は到る處破壊され、鐵橋も亦同様である。たゞ僅かに平常の如く運轉してゐるのは北京奉天の一線のみであるといつて、支那事變のためにイギリスの受けた損害が如何に莫大であるかといふことを示唆してゐる。

けれども、鐵道や鐵橋を破壊するに必要な砲彈や爆彈を蔣介石軍に供給したものは誰であつたか、蔣介石軍をして、その退却に際して鐵道や鐵橋を爆破せしめたものは、イギリス自身ではないか、しかもそれを棚に上げて責を他に歸するといふことは、呆れ果てた自家撞着といはねばならぬ。

イギリスが支那の沿海並に楊子江において運航しつゝあつた船艦は、事變前實に百二十隻、三十萬トンを越えてゐた。然るに、これらのイギリスの船艦は事變

のために運航の自由を失つた。イギリス政府は幾度かわが政府に抗議し、速かに沿海の封鎖をやめ、楊子江を開放せよと要求して來てゐる。しかし、楊子江の流れには多數の機械水雷が浮流し、兩岸からは支那兵が航行する船艦を狙撃するこんな状態の下において楊子江の開放が出来るか。しかも、その機械水雷も銃砲彈もすべてイギリス自身が提供しつゝあるものではないか。

沿岸封鎖とても同様である。沿岸を運航しつゝあるイギリスの船艦は、一體何をしつゝあるか。その船には、兵器彈藥その他の軍需品を満載してゐるものが多いのである。斯の如き船を自由に航行させることが出来ると思ふか。

二、海賊英國の放逐

以上述べたところによつて、イギリスの海賊性と敵性が大體において推察することが出来やうと思ふ。そしてイギリスといふものを、東洋から放逐せざる限り東亞の平和が絶対に招來されぬといふことも、推量することが出来るであらう。

そして、われ／＼は今イギリス追放の絶好の機会に恵まれてゐるのであつて、この絶好機会を逸するにおいては、將來ますます事態の紛糾を甚だしくするであらうといふことを知らねばならぬ。

ワーレン・ヘスチングのインドにおける暴虐を摘發したエドモンド・パークはその摘發の日において左の如き一語を以て摘發演説を結んでゐる。

「ある賢明なる詩人は云つた、「金力を恐れよ！」と。アジアの富によつて多分われ／＼の自由は破壊されるであらう。アジアの強盜犯罪人の大洪水は、議會にも押し寄せ、われ／＼の憲法の基礎を破壊するであらう！ ワーレン・ヘスチング有罪の判決を私は望むものである」

と。しかしながら、金は遂に物を云つた。ワーレン・ヘスチングは無罪となつた。けれども、パークの豫言は恐ろしくも實現してしまつた。イギリスはアジアの富の氾濫を受け、その罪惡によつて墮落せしめられ、イギリスの政治はますます欺瞞の沼と化し、それによつてユダヤ人に最適の國となつた。印度におけるイギリ

スを暴君の罪惡と結びつけた結合は、イギリスの頹廢を誘發せずには措かぬであらう。

イギリスは自ら以て世界の平和の建設者を以て任じてゐる。しかし、それはイギリス自體の利益においての平和であつてイギリスのためになることばかりを條件とし、他のすべてを奴隸の如く隨使しやうとしての平和であることは、世界大戰の結末を見てはつきりと、世界列國の認識したところである。

即ち、イギリスは自ら平和を建設すると稱しつゝ、その實平和を破壊する動因の種子を蒔きながらやつて來たのである。その種子が芽を吹き葉を伸ばしはじめたために、今日ヨーロッパにおいてもアジアにおいても、眼前に見るが如き事態が起つてゐるのである。それによつて見るとイギリスは平和の建設者ではなくて實に平和の破壊者なのである。われらは斷じてこの一事を忘れてはならぬ。

然り、イギリスは、正に平和の破壊者である。イギリスが傳統的に固守し來つた政策なるものは、實に「デヴァイド・アンド・ルーアル」であつた。譯して「離間

「制御」とも云ひ、仲間割れをさせそれに乗ぜよとも云つてゐる。インドにおいて、支那において、イギリスが爲し來つたところは正にそれであるのみならず、それをアジア全體から見ても、全アジア人の離間、仲間割れを策し來つてゐるのである、そしてそれに成功して來たのである。

けれども、最早やイギリス全盛の時代は去つた。われらはイギリス人の如何なる國民であり、イギリスの如何なる國であるかを、認識する以上、彼等の思ふ壺にはまつてはならない。今次聖戰の目的を貫徹するためには斷乎として事變の因つて以て發生し來つた根本原因をつきつめて、それが芟除掃蕩をなさねばならぬ。成り上つた海賊に過ぎないイギリスを膺懲することは、一にアジアのためであるばかりでなく、實に世界人道への大なる貢獻であることを知るべきである。

〔定價 金三十錢〕

昭和十五年七月卅一日印刷
昭和十五年七月卅一日初版發行
昭和十五年八月四日再版發行

亞細亞大陸協會
資料

著 作 人

池 田 林 儀

發 行 所

亞細亞大陸協會

東京市京橋區銀座一ノ五

亞細亞大陸協會内

發 行 兼
印 刷 人

古 森 貞 久

發 賣 元

東京市京橋區銀座一ノ五

新 聞 合 同 通 信 社

電 話 京 橋 六 六 五 五 番

振 替 東 京 二 九 九 三 番

407
446

少 僅 部 殘

に 戦 済 経 は 國 英

勝 ち 得 る か ?



著 儀 林 田 池

所 行 發
會 協 陸 大 亞 細 亞
座 銀 ・ 京 東

全世界注視のうちには北歐數ヶ國を蹂躪し、フランスを屈伏し、餘すはイギリス攻撃だ!! 武力戦果は既に判然としてゐる然し長期經濟戦はどうなる兩國戦時下經濟を衝く快書がこれだ!!

東京市京橋區銀座一ノ五

新聞 合同 通信 社

振替東京二九九三番

特價 金卅錢 送共

外國漫畫數葉入り

終

